

タイヤの空気が少なくなると、パンクが起こりやすくなります。 (※チューブレスタイヤは除く)

Q1.パンクを減らす一番の対策は？

A1.定期的に空気を入れてください。

Q2.なぜ空気が抜けてしまうのか？

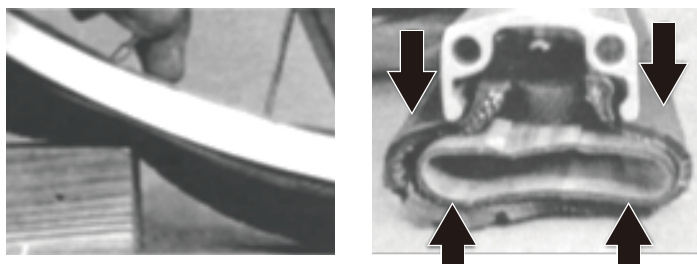
A2.空気(酸素)がゴム質を透過するために発生します。

- おおよそ約1ヶ月で空気圧が半減します。(チューブ厚みや温度などで異なります)
- 走行距離にもよりますが、2週間に1回、しっかりと空気を入れることをおすすめします。
- パンクを含むチューブトラブルの約70%が空気圧不足によるものです。
- 新品のタイヤチューブでも、空気圧は自然に減っていきます。
- 空気圧が低いままだと、タイヤの中のチューブにトラブルが起きる原因となります。

パンクの事例

特に空気圧が低い場合、簡単に起こります。

●リム打ち(蛇噛み)



(1) 走行中に、歩道の段差や路上の石、穴などでタイヤが強い衝撃を受けると、タイヤ、チューブは路面の角とリムに挟まれて集中的な圧縮を受けます。それが原因となり、切れて穴が開くことがあります。



●反射テープの剥がれ※Kilali、Kilacle用タイヤに装着
【タイヤ側面の変形により、剥がれる場合があります。】



●タイヤのひび割れ
【空気が入っていない証拠です。】



タイヤ内でチューブが1ヶ所に寄ってしま
うことを「チューブの片寄り」といいます。



(2) 空気圧が低いまま乗り続けた時のチューブは、荷重によるたわみによりタイヤ内側の繊維質目に沿いギザギザにキズが付きます。



「片寄り」の程度や状態はさまざまです。

(3) さらにチューブの位置がズレ、片寄りも起こり、チューブの口金が折れることもあります。